

# くにみ海浜公園が完成



▲テープカットをする関係者



▲ビーチハウスやビーチバレーのコートが整備された「くにみ海浜公園」

6月27日(水)午後3時30分から、国見町櫛来の現地でくにみ海浜公園のしゅん工式が行われました。神事があり、野田侃生市長、猪俣俊雄市議会議員や関係各界代表の皆さんが玉ぐしを捧げ、野田市長が、「このすばらしい施設の完成により、スポーツはもちろん、夏場の海水浴、潮干狩り、建て干し網漁、そして宿泊まで、市内外からの観光交流人口が増えることを期待しています。」と式辞を述べました。この後テープカットがあり完成を祝いました。

くにみ海浜公園は、昭和63年に当時の運輸省よりコースタルリゾート調査箇所として決定され、平成3年度に事業に着手。着手から17年をかけて、ビーチハウスや少年サッカーコート、ビーチバレーのコート、トイレ等の施設が整備されました。

今後は、海水浴場としてはもちろん、各種のイベント会場や、学校行事での利用、地域の皆さんの交流の場等、権現崎のイベント施設としての活用が期待されています。

## ようこそ“くにみ”へ! タイからの研修団が宿泊体験

5月31日の夜、国見町のくにみグリーンツーリズム研究会の会員8名のお宅に、タイから大分県に研修に訪れていた皆さんが民泊をしました。一行はタイの政府関係者や大学教授・町村長や町村議会議員・通訳など女性を含む41名で、同日午後3時から国見町のみんなんかんでの歓迎式の後、それぞれの家庭に分かれて民泊をしました。

今回視察団の団長以下計7名の皆さんを泊めた同町櫛海の田辺良子さんに翌日感想を伺いました。

よく外国の方を何人も泊めましたね。気疲れをしませんでしたか? の問いに「いいえ、楽しかったですよ。もともと我が家は、人の集まる家ですし、昨年義父が亡くなってからは、夫と二人きりです。昨夜は、日本が米不足になり、タイ米を輸入した時の話から政治、経済のことまで夜遅くまで話がはずみました。通訳の方も我が家に宿泊してくれたのが幸運でした。」

▶田辺良子さん



昨日の夕食のメニューは?  
「タイの人は甘辛でピリ辛



▲みんなんかんで行われた歓迎式

味が好きだという事前情報がありましたから、そこだけ少し気を遣いましたが、普通の日本食をお出ししました。メニューはうどん・うま煮・キュウリの酢もの・いんげん豆のゴマ和え・豚肉のピリ辛。それとイチゴと裏山で採れたビワですが、このビワが好評で、今朝ビワの木を見たいというので案内しました。」今後の活動については? 「昨年北九州の中学生を泊め、今回が2回目です。まず第一に楽しいですし、グリーンツーリズムの仲間との絆も深くなりました。日々の生活に張りも出てきましたし、今後も事情の許す限りいろんな人を泊めて、自分の世界を広げていきたいですね。」と微笑んで話してくれました。